

全国珠算学校連盟主催の暗算検定2段合格

玉村 光希君

こうき



そろばんの楽しさに触れ、伸びる実力、膨らむ夢

第一珠算学校(及川實校長)
に通う玉村光希君(江釣子小
1年生)は1月、全国珠算学
校連盟主催の暗算検定2段に
合格しました。

段位検定は3桁同士の乗暗
算や5、6桁を3桁の数字で
割る除暗算、3～5桁を加算
していく見取算で中学生でも
得点を重ねるのは難しく、2
段は300点中110点以上
(7段までは各20点、8段以
上は各30点加算)を取らなければ
ならないもの。玉村君は
乗暗算2段、除暗算7段、見
取暗算4段で暗算検定2段に
合格し、「乗暗算がいつもよ
り点数が取れなかつたけれど、
2段を取れて良かった」と喜
んでいました。

玉村君は昨年3月、小学校
入学前で同連盟主催の暗算検
定初段、小学1年生になり、
11月には同連盟主催の珠算檢
定1級に合格。どちらも同連
盟岩手県支部では最年少での

合格となりました。ほかにも
日本商工会議所主催の珠算能
力検定1級にも合格するなど、
次々と難関を突破しています。

玉村君は幼稚園年中の5歳

のとき、そろばんを習つてい
た母の勧めでそろばんを初め

ました。練習をしていくうち
に、今までより計算が速くで
きるようになることが楽しく、

週2回1時間くらいの練習で
きました。

玉村君は、そろばんを習つて
いた母の勧めでそろばんを初め

ました。練習をしていくとき
に、今までより計算が速くで
きるようになることが楽しく、
週2回1時間くらいの練習で
きました。

小学校では体育と算数が好
きで、高学年になつたらバス
ケットボールをしたいと話す
玉村君ですが、今は今月に行
われる検定に向けて、一生懸
命練習しています。目標は
「いっぱい練習して、小学生
のうちに10段に合格したい」
と話し、常に高い目標を持つ
て練習しています。そして、
「おばあちゃんと一緒にそろ
ばんを教えたい」と将来の夢
を笑顔で話していました。



Made In KITAKAMI

たかみ生まれ

市内製造業の製品をご紹介



直列4気筒のトラック用シリンダーブロック

シリンダーブロックとはエンジンを構成する部品の一つで、その骨組みのこと。加熱して溶かした約1,500度の鉄を砂で作った型に流し込み、冷えて固まった後、型から取り出して作られる鋳物製品です。エンジンにとって重要な部品であり、「鋳物を制する者、エンジンを制す」の思いで、品質管理を徹底しています。いすゞ自動車製のトラック、バスをはじめ建設用機械、産業機械、船舶などのエンジン用鋳物素材として年間50万台出荷されています。

株式会社アイメタルテクノロジー北上工場
和賀町後藤2-106-6 ☎73-8501



中央図書館☎ 63-3359 江釣子図書館☎ 77-2215 和賀図書館☎ 72-2322
中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

《3月の新着本から》

▼ 道化師の蝶	円城 塔
般 書 日本人はどう住まうべきか?	養老 孟司・隈 研吾
書 免疫力をあげる子育て法	安保 徹・西原 克成
100歳までボケない手指体操	白澤 卓二
無双の花	葉室 麟
▼ 児童書 みんなが知りたい放射線の話	谷川 勝至
どうやって作るの?パンから電気まで	オールドレン・ワトソン
イチゴがいっぱい	竹内 もと代
今日から囲碁をはじめる	相場 一宏
いたいのいたいのとんでゆけ	新井 悅子

《おすすめ新着本》

『共喰い』

田中慎弥／著
集英社



川辺の町で起る、逃げ場のない血と性の濃密な物語を描いた。「すばる」掲載を単行本化。(第146回芥川賞受賞)

《4月のイベント情報》

■おはなし会

4月8日(日) 午前11時~11時30分 中央図書館
4月15日(日) 午前11時~11時30分 江釣子図書館

■こども映画会

4月28日(土) 午前10時30分~11時30分 中央図書館

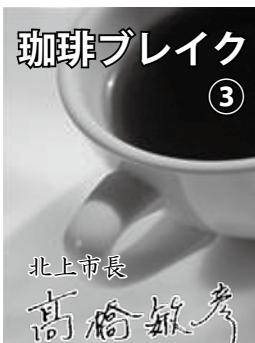
『はばたけ、ルイ! 少年レイ・アームストロングとコルネットの真実の物語』

ミュリエル・ハリス・ワインステイン／作
リーブル



一人の貧しい黒人少年が、質屋の店先でコルネットという楽器と出会う…。偉大なジャズ・ミュージシャン、ルイ・アームストロングの少年時代から本格的デビューまでを描いた伝記的物語。

石垣島マラソン(2)



まずは博物館へ。本土とは全く異なる歴史を持ちながら、朝の影響が強い独特的の文化が印象に残った。戦争マラリア記念館では、第二次世界大戦での住民の苦しみを今に伝える展示を、真に迫る解説で体験させていただいた。このほか、特産のみんさー織や石垣牛の牧場、マラソンコースなど:大会前日の忙しい中、丁寧に案内してくれた石垣市役所の職員には、本当に頭が下がる思いである。

夜は岩手県選手団の激励会が開かれ、エントリーした健脚53人が抱負を述べた。美しい景色を眺めながら楽しんで走りたいといった言葉が多く、宣言した若者もいて、大盛り上がりだった。宮古市から参加した女性で、北上マラソン代表の大久保和美さんは、マラソン出場3回目。優勝とう言葉は出なかつたものの、秘かに狙っていたのかかもしれない。

当日のスタートーは元プロボクサーの具志堅用高氏で、総数4千人を超える参加者のスタートは迫力があった。私たちはゴール手前10キロ付近へ移動して応援。今まで岩手県代表がよく優勝していたそながら上位で通過することはなかつたが、女子は大久保さんが首位とわずかの差で2位通過。大いに期待しながら陸上競技場に引き返すと、なんとかトップで競技場に帰ってきた。ゴール前で夢中でシャツを押し、その瞬間をカメラに収めた。